

第356回 山口西田読書会(2024年7月14日開催分)の Protokol

1. テキスト

第五講 新カント学派

52頁 15行目 「自然科学の外に歴史学というものも」から

55頁2行目 「マールブルグ学派のほうが一層明瞭であるように思われるのである。」まで

2. キーセンテンス

53頁 15行目～16行目

学問の種々なる区別は如何なるアプリアリから客観的实在を統一するかによって生ずる。即ち方法論的範疇によって定まるのである。

3. 問い

カントが見い出した知識の先天的要素を、リッケルトが方法論的範疇として明確にした、という流れと理解しました。リッケルトによると方法論的範疇は二範疇(一般性の立場＝自然科学、個別性の立場＝歴史学)に分けられ、「従来凡ゆる学問の上に立った自然科学も歴史学と同列に引き下ろされることになった(53頁3行目)」ということですが、それならば哲学の方法論的範疇とはどんなもので、自然科学とは何が異なるのでしょうか。